

令和7年度 学校評価結果

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>1 知的障害部門の専門性継承を意識した各教科等における授業・実践力の向上                  2 ICT環を効果的に活用した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善                  3 個に応じた自立活動の充実及び発達段階に応じた切れ目のないキャリア教育の推進                  4 多様な背景をもつ児童生徒に寄り添った指導・支援の充実                  5 地域における体験的な学習への積極的な取組                  6 保護者や関係機関とのつながりを強化した教育的支援力の向上                  7 社会情勢や学校の現状と課題を考慮した危機管理体制の構築                  8 学校いじめ防止基本方針を踏まえたいじめ事案の早期発見、早期対応の取組                  9 教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境づくり</p>			
<p>担当</p>	<p>重点目標 (関連項目番号)</p>	<p>具体的方策</p>	<p>評価</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>小学部</p>	<p>自立活動の指導について、個に応じた指導支援の充実を図る。(3)</p>	<p>目標設定の流れや、個別の課題学習の指導内容や方法について、学び合いや情報共有を図る。</p>	<p>A</p>	<p>校内研究や外部専門家活用事業を通して事例の紹介や検討を行った。指導目標や方法等について、学年を超えた情報の共有や交換ができた。職員アンケートから、参加した職員全員が新たな学びを得られ、90%以上が実態把握から目標設定までの流れをイメージして後期の目標を作成できた。また、多くの職員が得られた学びを指導目標の設定や教材教具の工夫、指導方法などに生かした。</p>
<p>中学部</p>	<p>生徒の発達段階に応じた作業学習の内容や指導方法を再考する。(3)(4)</p>	<p>キャリア発達の視点で個々の生徒の実態や目標を捉えるとともに、共通理解を図る。作業内容や指導方法について、キャリア発達の視点で検討を行う。</p>	<p>B</p>	<p>作業学習の検討を、中学部段階のキャリア発達の視点で「作業種目」と「基本的な作業活動」、「つきたい力」の内容について関係職員や会議等で内容の確認、意見交換、共通理解を図ることができた。8年度から7種目の作業を展開していくが、今後、令和7年度の年間指導計画の見直しと修正を作業班ごとに進めるとともに、令和8年度の年間指導計画作成に向けて話し合い共有をする。</p>
<p>高等部</p>	<p>ICT機器を効果的に活用した授業改善を図る。(3)</p>	<p>生徒個々の実態に合わせてICT機器を効果的に活用し、授業内容の改善や教材の開発を行う。</p>	<p>B</p>	<p>ICT機器については、校内研究や部会を通して使用方法や実践アイデアの共有はできた。また、職員室内に機器を設置したり、穂の原まつり等の事前学習などにも活用をすることができた。しかし、授業での実践では行事の事前、事後や作業学習での活用場面が見られるようになったが、各教科や自立活動での実践については今後も意見を集約しながら進めていく必要がある。</p>
<p>総務部</p>	<p>総務で担当している校務のデータや引継ぎ資料を整理し、業務の効率化を図る。(9)</p>	<p>データの保存ルールを決める。引継ぎ資料のデータは内容を確認し、最新のものとす。紙の資料に関しては、期限の切れた内容はすべて廃棄し、必要な情報だけを残す。</p>	<p>A</p>	<p>総務で担当している業務の主担当者を中心に、すべてのサーバー内と紙ファイルの資料整理を行うことができた。今回過去の資料を見返すことで、自分の仕事内容を再度確認するよい機会ともなった。今後の課題としては、人の入れ替えがあった場合でも、継続して資料整理を行っていかれるかどうかと考える。</p>
<p>教務部</p>	<p>キャリア教育の視点で、各発達段階で育てたい力について共通理解し、具体的な指導内容の検討や情報(知識・技術)の共有を通して教員の専門性、指導力の向上を目指す。(1)(3)(5)</p>	<p>進路の手引きを活用し、小中高の系統性を踏まえて、各発達段階で育てたい力について部内で確認する。児童生徒のキャリア発達を支援するために、部内で共通理解する必要がある内容を取り上げ、検討や情報交換の場を設定する。</p>	<p>B</p>	<p>小学部では、日常生活の指導について、指導内容や支援方法について共通理解し、日々の指導の改善につながった。中学部では、作業ノートの改善を行い、生徒自身が主体的に明確な目標をもって取り組むことができた。高等部では、年間指導計画の立案時にキャリア教育の視点を確認し、共通理解を図ることができた。今後も「キャリア教育の視点で育てたい力」について部内で共有し、互いに知識や技術を伝え合うことを継続していくことが課題である。また、他部の指導について知り、系統性をもって指導していきたい。</p>
<p>保健 体育部</p>	<p>熱中症予防に向けた体制を整備し、教職員への啓発を図る。(7)</p>	<p>熱中症予防の体制整備のポイントをまとめ、関係職員が情報を共有し、児童生徒への指導に役立てる。</p>	<p>B</p>	<p>10月に教職員を対象として実施した「熱中症に関する意識アンケート」の結果、8割以上の教員が1学期と比較して熱中症に関する意識が高まったと回答した。保健体育部で作成した動画や歌を視聴した教員は約8割にのぼったが、授業で活用した教員は約6割にとどまった。これらの結果から、教職員への啓発を通じて意識の向上は一定の成果が見られたものの、日常の教育活動や生活場面での活用には課題が残ることが分かった。今後は、児童生徒への指導により効果的につながるよう、教材や活用方法の整備を進めていきたい。</p>

自立活動部	自立活動室にある教材・教具やその効果的な活用方法を職員に発信することで、自立活動の指導の充実を図る。(3)	自立活動だよりやスマイルサポートだよりの中で、自立活動室にある教材・教具の種類やねらいに応じた活用方法などを紹介し、職員へ発信する。	A	職員向けに自立活動だよりを年3回、スマイルサポートだよりを年2回発行し、自立活動室の利用の仕方、貸し出している教材・教具の紹介、具体的な活用事例を発信することができた。新しく購入した教材・教具についてはグループウェアで紹介し利用を促した。職員向けのアンケートでは、自立活動室にほしい教材・教具・書籍などが多く挙げられていた。自立活動指導の充実に向けて、ニーズの多い教材・教具の購入を希望していく。また、教具などが大切に扱われ、返却のルールが守られるようにするための効果的な方法について今後検討していく必要がある。
指導部	いじめ防止基本方針を見直す。(8)	各部の配慮事項、基本方針について見直し、周知し、児童生徒への指導に役立てる。生徒指導提要の内容を具体的に盛り込む。	B	生徒指導提要を基に、発達障害をもつ児童生徒への指導内容をイラストや図を交えたパワーポイントにまとめたことで、意識してほしいこと簡潔に指導することができ、発達段階に応じた課題解決から児童生徒の成長を促す指導ができた。小・中学部でも活用できるようにアレンジすることが必要である。発達支持的生徒指導の内容を充実させることはできたが、職員への周知は継続的に行っていく必要性を感じる。
	行方不明児童生徒捜索マニュアルを見直す。(7)	役割の仕事内容が分かるように役割カードを作成し、有事のときに配布し、落ち着いて行動できるようにする。内容の一部変更の周知を行う。	B	「捜索時役割カード」を導入した訓練では、役割カードの使用を確認しながら進めた結果、これまで以上に「誰が何を行うのか」が明確になり、初動体制をスムーズに整えることができた。職員が迅速に役割を把握できたことは、効率的な捜索活動につながったといえる。今回の訓練では役割カードを使用する機会がなかった職員もいたため、訓練を重ね、カードの役割や使い方を確実に理解してもらう必要がある。
進路指導部	「就労選択支援」(新制度)について知る。(3)	研修等で新制度について知る機会を計画する。	A	新制度について学ぶ機会を多く作ることができ、理解や興味を深めることができた。研修で疑問点についての回答をしていただき、丁寧に進めることができた。各自自治体の会議に参加して新制度への取りについてを知ることができた。各自自治体で新制度が動き出し、学校としての進路の進め方も定まってくれば手引きのほうには載せていきたいと考える。
研修部	参考資料として自立課題教材の写真を撮り、授業実践に活用できるようにする。(1)	自立課題の画像を写真撮影し、画像を整理して教員が閲覧しやすいようにする。	A	自立課題教材の写真を整理し、13個のフォルダに分類した。その課題の特徴が分かりやすいフォルダ名にして、多くのデータを整理することができた。最終確認をした後、2学期からの授業で使う教材作りに活かせるようグループウェアで周知した。今後も、数年ごとに写真を撮り、参考資料としてデータを増やしていきたい。
情報図書部	絵本と給食の連携を図り、ICTを活用した事前学習資料を作成する。(2)	絵本に出てくるメニューで給食として提供できるものを探る。絵本の内容を、画像や音声を活用して、イメージをしやすい事前学習資料を作る。	A	視覚、聴覚をともに利用した事前学習教材を作成できた。小学部、中学部、高等部ともに児童生徒が具体的にイメージすることができて良かった、という好評価をいただいた。来年度もこの絵本給食を実施するのであれば、絵本やメニューを児童生徒が決められると良いと感じている。
支援部	校外外で使えるICT教材を製作する。(2)	視覚支援が必要な児童生徒中心に活用できる教材、高等部向けは、よくある生徒指導上の問題点を集めた教材を製作する。	A	製作した教材を授業で使うことができ、「SNSの使い方」や「LINEの使い方」は高等部の部集会などでも活用できると思われる。また、視覚支援カードとして教室内に掲示し、言葉かけと合わせて使うことで自閉症の児童生徒への効果を実感することができた。地域の小学校にも自立活動教材として紹介したり、高等学校での生徒向け研修にも活用したりすることができた。今後は、持ち出し資料として使いやすいよう整理していきたい。
教頭	教育活動の情報発信をする。(6)	各学年、各学部掲載内容の年間計画案に従って取り組む。	B	撮影機器については、教育後援会長の理解と協力を得て、15台のデジタルカメラを配備することができた。今年度は「ホームページ新着情報掲載依頼票」を作成するところまで試行した。次年度は、各学年が選定したHP掲載用の写真を特定のフォルダに集約して、情報の発信に取り組みたい。
	ICTを活用した取組を行い、業務改善につなげる。(9)	教員が授業準備以外に行っている校務について、ICTを活用することにより改善を図る。	B	時間割等のカード作りに必要なデータを共有サーバーに集約し、研修部と協力して他の教材とともに整理した。新転任の職員をはじめ職員が年度当初に活用できるように、今後職員に周知しさらに活用を促していく。また出欠席をメッセージアプリで行うようにした。朝の電話対応をする時間が激減しただけでなく、保護者にとっても電話がつながりにくく、かけ続けていただく負担が減った。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的障害部門の専門性継承を意識した各教科等における授業・実践力の向上</li> <li>・ICT環境を効果的に活用した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善</li> <li>・学校いじめ防止基本方針を踏まえ、いじめ事案の早期発見、早期対応の取組</li> <li>・教職員が健康的に教育活動及び業務に従事できる環境づくり</li> </ul>		